

そけい 鼠径ヘルニア（脱腸）とは



常陸大宮済生会病院
外科消化器科医員 千葉 時七

鼠径ヘルニア（脱腸）とは、足の付け根（鼠径部）から腸や脂肪などの内臓が腹腔外に飛び出してしまった状態です。典型的な症状は、立ったり、力んだりしたときに腹圧がかかると足の付け根が膨らみ、横になったり、手で押し戻したりすると引っ込むことが多く、痛みを伴うこともあります。腸が飛び出たまま挟まって戻らなくなることを「嵌頓（かんとん）」といい、飛び出した腸の血流が悪くなって緊急手術が必要になる場合もあります。

鼠径ヘルニアの治療

手術で治す以外に鼠径ヘルニアの治療方法はありません。嵌頓のリスクや放置するとだんだん大きくなることもあるため、見つけた時点で手術をお勧めしています。

手術の方法はいくつかありますが、いずれの方法も脱腸をおなかの中に戻して腹壁の穴をふさぐことが目的です。当院では主に前方アプローチと腹腔鏡下手術を行っています。

①前方アプローチ

鼠径部に約5cmの皮膚切開をおいて腹壁の外側からメッシュという人工材料をあてて補強します。

②腹腔鏡下手術

おなかを二酸化炭素ガスで風船のように膨らませて、通常は3か所の小さな傷（臍に1cm、両わき腹に5mm）で手術を行います。メッシュを腹壁の内側からあてて補強します。

どちらの方法も治療効果は同等といわれており、患者様の要望や手術歴・持病・心肺機能などを踏まえて方法を検討します。

標準的な治療スケジュール

手術の入院期間は通常3～4日間程度です。

<手術前日> 午後入院

<手術当日> 手術は、片方約1時間～1時間半かかります。

腰の麻酔の場合は手術当日の夕方から、全身麻酔の場合は翌朝から水分をとっていただきます。

<手術翌日> 朝から食事が開始されます。

特に問題なければ手術翌日以降退院可能です。

病状経過には個人差があります。合併症があったときなどは、詳しく説明し適切な処置を行います。

脱腸かな？と思ったらぜひ当科外来でご相談ください。

※救急受け入れの人数を
月別に表しています。
(休日・時間外を含む)

常陸大宮済生会病院 救急患者受入状況

